

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
地球惑星科学関連学会 合同大会	1992年4月7日 ～10日	地球電磁気・地球惑星圏 学会, 地震学会, 火山学 会, 測地学会, 地球化学 会	京都大学教養部(京都)	
Quardrennial Ozone Symposium	1992年6月4日 ～13日	IAMAP/IOC	アメリカ Virginia 大学	Vol. 38, No. 4
第4回水資源に関するシ ンポジウム	1992年8月3日 ～4日	日本学術会議, 気象学会 など	日本学術会議	Vol. 38, No. 9
日本気象学会 1992年度春季大会	1992年5月26日 ～28日	日本気象学会	工業技術院つくば 研究センター(つくば)	
第11回雲と降水に関する 国際会議	1992年8月17日 ～21日	IAMAP/ICCP	カナダモントリオール McGill 大学	Vol. 38, No. 4
第13回ニュークリエー ションと大気エアロゾル に関する国際会議	1992年8月24日 ～28日	IAMAP, CNA, ICPP	アメリカユタ州 Utah 大学	Vol. 38, No. 1
日本気象学会 1992年度秋季大会	1992年10月7日 ～9日	日本気象学会	教育文化会館(札幌)	
第29回自然災害科学総合 シンポジウム	1992年11月4日	重点領域「自然災害」総 合研究班	秋田市文化会館(秋田)	
第11回日本自然災害学会 学術講演会	1992年11月5日 ～6日	日本自然災害学会	秋田市文化会館(秋田)	

編集後記：日本の気象衛星「ひまわり1号」(GMS)が1977年に打ち上げられてから15年の現在では、1989年に打ち上げられたGMS-4が運用されている。3時間毎の全球VISSR観測がGMSから行われてきたが、1987年からは北半球毎時観測(3時間毎の全球とその間の2回の北半球観測)、さらに1989年からは全球毎時観測と観測が強化されてきた。

「天気」の口絵にGMSの写真が初めて登場したのは1979年の「ひまわりの画像から」である。その後、宇宙から見た気象」とスタイルを変え、1986年4月号から現在の「日々の衛星画像」になっている。筆者は昨年4月から編集委員になり、この欄を担当しているので、どのような経緯で毎日の日本時間正午(03Z)の赤外全球画像が掲載されるようになったかについては知らないが、1ヵ月分の情報が手軽に得られるので読者には好評なの

では・・と思っている。しかし、「半年前の画像では速報性に欠ける」という読者の声があったので、この場を借りて理由を説明したい。掲載される写真は気象衛星センターが発行している月報に使われたもので、筆者の手元に来るまでに3ヵ月の遅れがある。更に、「天気」の印刷までに3ヵ月の遅れが生じ、半年遅れになっている。

ところで、3月と10月初めの一週間程度02Zの画像が使われていることに気づいた読者はいらっしやるだろうか？これは、太陽妨害と呼ばれる現象のためである。この時期03Zの観測時間帯に、衛星との通信を行う地上局のアンテナと、東経140°の赤道上約35800kmにある衛星の延長線に太陽が位置する。衛星からの電波が太陽から放射される電波によって妨害されるために03Zの観測ができなくなるのである。

(内田裕之)